

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年八月度 入選句（投稿総数二千五百四十五句・一般投句数八百八十句）

特選

打水の桶の青空撒きにけり 揖斐郡池田町 木塚 しょう

打水。暑さや埃を抑えるために路地や庭に水を撒くこと。その時の周りの情景や心の動きを詠む句は多いが、この句は桶の水を主役にした。さらに、水に映る青空を撒くという飛躍があり、巧みな表現となった。

海原へ風がかぶせし夏帽子 大垣市 服部 聖治

夏帽子。夏の日差しをさけるため周につばの付いた帽子。ひろびろとした海面に帽子が漂っている。誰かのものが風に飛ばされ、海に落ちたのであろう。その景を見て、風が海に帽子をかぶせたと感じた。まさに俳句的発想である。

手から手へころがし渡すてんとむし 大垣市 秋山 くに子

天道虫。体長七ミリほどの半球型の甲虫。背に赤や黒の斑点があり愛らしい。捕まえるときは指でつまむより、手の平にのせることが多い。親子、兄弟姉妹、友達どうし見せ合っている様子が、いきいきと伝わってくる。

秀逸

囓むうちに夏大根の顔となり	福井県敦賀市	山田 美千代
草笛を吹けば貴方の声がする	大垣市	安江 藍花
光る汗努力した分輝いて	大垣市	桑原 亜里沙
青葉風マーチのように流れてく	大垣市	江崎 リタ
螢火やドロップ缶の音響く	岐阜市	谷 のりこ
烏瓜咲く一村の深ねむり	大垣市	佐藤 すみ子
亡き父のブリタニカ読む夜の秋	岐阜市	伊藤 瑞実
自己流のラジオ体操生身魂	大垣市	高木 佐知子
百歳の夢を吊るして星まつり	長野県下伊那郡	長沼 まさし
夏蝶の空に描きし恋の線	瑞穂市	谷 牛歩

入選

八十の手にこそばゆき雨蛙
一幅の墨のかすれや夏座敷
葉桜の樹下に十六夜日記の碑
雲の峰島へ一直線の橋
真つ直ぐに行く真黒のサングラス
うつすらと夜風の匂ふ竹すだれ
雨しづくするりと落ちて茄子紫紺
ジーンズの似合ふ和尚の盆踊
木靴の音打ち揃ひたる茅の輪かな
闇間より若き声とぶ筒花火

安八郡輪之内町	野村	照子
養老郡養老町	田中	秀子
愛知県岡崎市	小貫	あかね
東京都世田谷区	関戸	信治
京都市宇治市	八田	弥須子
大垣市	日比野	友子
大垣市	多賀	英華
大垣市	村田	通夫
不破郡垂井町	竹嶋	富美子
大垣市	岡田	あや子

入選

秋刀魚焼く潮の香りも裏返し
縄梯子どさりと置かれ震災忌
捨てきれぬ物に囲まれ冷奴
ヨーヨーをふりふり歩く浴衣帯
雷鳴に夢邪魔されて寝返りぬ
アマリリスむかしの歌が聞こえけり
いびつなる初茄子ひとつ供えたり
遠雷のたびに浮き立つ青伊吹
給食に西瓜一切れ種二つ
梅雨便り明るき色の切手貼る

大垣市	宮脇	和子
大垣市	森川	きよ子
岐阜市	宮西	美代子
大垣市	枯れ	尾花
大垣市	松永	勝二
大垣市	永島	みすゑ
大垣市	平野	きぬよ
大垣市	神野	武彦
大垣市	傍島	隆
奈良県生駒市	高嶋	瑞枝

選者吟

三センチ背の伸びたる子お盆玉

武直